

NOBIRU



私立高校に合格して ホッとしていると...

私立高校から合否通知が届き「合格」の文字を見て一安心。
私立高校受験が終わったと思っている受験生に大切なお話です。
高校入学前の「今」。この時期に大切なことは…。
推薦入試や専願入試で合格した人は要注意です。何故？
それは、合格した時点で勉強の手を止めてしまうことです。



中学と高校の違い～勉強編～ より

春から始まる高校生活。中学まではできなかった色んなことをやってみたいというワクワク感もあれば、勉強についていけるのかな…という不安もあると思います。中学と高校の勉強の違いを紹介します。



1. 予習が必須

高校生になると授業のスピードが上がり、内容もかなり難しくなります。学年が上がるたびに同じことを言われたと思いますが、高校の勉強は本当に難しいです。そこで必要になってくるのが予習です。もちろん部活動などで忙しい人もいますが、全ての科目というわけではありませんが、主な科目(国数英など)の授業は予習していることを前提に進めていく先生も多いです。例えば、古典なら次の授業で扱う所の現代語訳をノートに書いたり、数学なら基本問題を解いたり、英語なら和訳をしたり…といった感じです。
授業中に当てられ「やっていません…。」は恥ずかしいのでみんな頑張って予習をしています。

2. 圧倒的に多いテストの数

高校になると授業科目数も増え、当然テストの数も増えます。例えばひとくちに数学といっても「数学Ⅰ」と「数学A」に分かれていたり、国語も現代文と古典で授業が別々になったりするので、それぞれ対策をしなければいけません。

中学では国数英理社のテストを1～2日間で行う所が多いですが、高校になると4～5日間という日程になることもあります。だんだんと慣れますが、最初は大変です。普段から授業をよく聞いて直前の一夜漬けにならないように。



3. 数学の回答の仕方

テストに関連して、もう一つ変わるの数学の回答の仕方です。高校入試までは、学校によって出題傾向の違いはありますが、だいたい答えだけを解答欄に書く問題が多かった

でしょう。しかし、高校になるとそういう問題は少なくなり、答えを導く過程を書く問題がほとんどになります。答えが合っているにもかかわらず途中の説明が不十分だと減点されるなんてこともしばしば。

初めは大変ですが、こういう回答を通して、人に物事を論理的に説明する力もつきます。「これ何の役に立つの?」と感じる数学の内容もあるかもしれませんが、数学以外でも大いに役に立つ力が付くので頑張って慣れていきましょう。



4. 文理選択や選択科目による専門化

大学受験を意識している高校に進学する人は、いずれ「文理選択」や「科目選択」をしなければならない時がきます。「高校に受かったばかりなのにもう大学受験?」と思うかもしれませんが、高校によっては1年生時に将来を左右する選択をしなければならないところもあります。(時期は高校によって異なります)

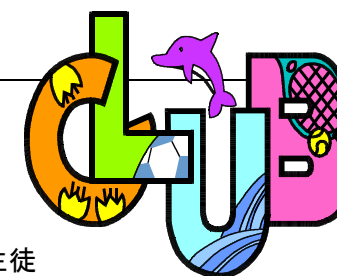
文理選択とはいわゆる文系と理系のどちらに進むのかを決めることで、科目選択は大学受験の理科や社会で使う科目を決めることです。どちらも、選択によって受験できる大学や学部が限られていきます。まだ早いということはないので、少しずつ自分の将来や大学について興味を持ってください。

最後に

高校の勉強イメージは湧きましたか? 大変なことも多いですが学ぶ内容も深くなり面白みも増します。楽しみですね。

中学校の学習内容が身につけていることが前提の高校での授業

高校生になるまでの時間を無駄にせず、より良い高校生活のため準備するのは「今」です。



学習面と生活面

まず、学習面においては、授業形態が予習復習を必須とするものになることをしっかりと理解してください。

特に進学校の場合、生徒の多くは中学時代まではこれといった予習復習をせずとも、それなりの成績を上げてきた生徒が多いことでしょう。

高校では「一日何時間の勉強が必要とされるのか」「国数英3教科の具体的な予習復習法」など具体的な情報を入手し、できれば各教科担当の先生の話もしっかり聞き、情報入手を行うことが望ましいでしょう。

生活面で重要なのは、部活と勉強を両立させることの重要性を理解することです。成績下降に伴って、部活を辞める生徒は決して少なくありません。

しかし、部活に打ち込むことは、社会性・人間性を養い、苦しい大学受験期を乗り切る持続力を身につける上でも重要な意味を持っています。部活を続けた生徒と、途中で辞めてしまった生徒を分けて、それぞれの大学合格率を比較すると部活を続けた生徒の実績の方が良かったことは言うまでもないことです。